

脳と才能

連載第15回
酒井 邦嘉
東京大学教授・言語脳科学者



「勉強しなさい！」という言葉は、子供の行動への命令であって、子供に勉強への心の要求を育てるやり方にはならない」

『鈴木鎮一のことば集 一心を育てる』 p.30
(公益社団法人才能教育研究会、2018年) より

鈴木鎮一先生のお言葉を紹介しながら、その奥義^{おくぎ}を科学で考えるという連載です。才能教育研究会がめざす「才能」には、どのような意味が込められているのでしょうか。そしてその才能は、脳のどんな働きに支えられているのでしょうか。

私は「勉強」という言葉が好きではありません。学者という仕事を選んだくらいなので、勉強することは大好きなのですが、それが「勉強」だと言われると違和感を覚えます。このことを初めて意識するようになったのは高校生のときでした。英語の先生が、「勉強が楽しくないのは当たり前だ。『強いて勉める』と書くんだから。それでも英語を勉強しないといけない」と言ったからです。すぐさま私は手を挙げて、「勉強することが好きな人もいます」と反論したら、その先生は「そういう人はそれでいい」と言ったきり、話題を変えてしまいました。

音楽では、「ピアノの練習」とか「チェロのお稽古^{けいこ}」と言いますが、「ヴァイオリンの勉強」や「フルートの訓練」とはあまり言わないでしょう。日々の練習や稽古は楽なものではないでしょうが、勉強と比べると「自由」だと思います。勉強はやらなくてはいけないこととして強制され、自由を奪ってしまいます。冒頭の鈴木先生の言葉のように、「行動への命令」なのです。

夏休みの自由研究が苦痛だった人は多いでしょう。自由研究はテーマを自由に選べるというだけで、勉強の延長として休み中にやらなくてはいけないのですから。私は科学者なので、本当の意味での「自由研究」が大切だと思います。テーマを押しつけられることなく、そして誰からも命令されるわけでもなく、好奇心の赴^{おもむ}きままに自由な発想で研究することが大事です。楽器の習得もそれと同じで、もし「心の要求を育てるやり方」が正し

くなされれば、子どもは自ら進んで練習に向かうことでしょ。



先日、『勉強しないで身につく英語—脳科学による画期的メソッド』(PHP研究所)という本を出しました。この「勉強しないで」というのは、母語と同じ自然習得を理想としてつけたのですが、「勉強しない」=「楽をする」=「怠けてよい」と誤解する人がいたので、言葉とは難しいものです。

この本は英語習得を科学的に明らかにするのがねらいですが、音楽との共通性を意識しながら説明していて、共同研究の成果についても触れています。例えば、次のように書きました。

「『音で覚える』方法は、先ほど紹介したスズキ・メソッドでも取り入れられています。同じ音源を繰り返し聞くことで、演奏にも通じるような『音の型』、つまり一定のパターンが、言葉のように脳に定着すると考えられます。このように、言葉を自然に吸収することで、脳が持つ言語能力に働きかけることが一番です。〔中略〕スズキ・メソッドでは、楽譜よりも模範演奏の音源の方を重視します。音源からの情報は膨大で、同じ情報を楽譜には到底書ききれません。音楽の抑揚や緩急の変化は、音楽用語で楽譜に記すことができますが、それも相対的な程度を表す記号にすぎません。言葉ではそう

酒井邦嘉 (さかいくによし)

1992年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。専門は言語脳科学で、人間に固有の脳機能をイメージング法などで研究している。主著に『言語の脳科学』『科学者という仕事』『科学という考え方』(中公新書)、『脳の言語地図』『ことばの冒険』『脳の冒険』(明治書院)、『脳を創る読書』(実業之日本社)、『芸術を創る脳』(東京大学出版会)、『チョムスキーと言語脳科学』(インターナショナル新書)、『脳とAI』(中公選書)。



ミルシテインやホロヴィッツは、ウクライナ出身の名演奏家でした

した変化ですら、文字で表記することはありません。それだけ音声から得られる情報が必要だと言えます」

つまり、英語もまた「音で覚える」のが望ましいわけですね。ですから、もしスズキ・メソッドが英会話教室を始めたら、その「母語教育法」という考え方を最も有効に活かせることではないでしょうか。



鈴木先生は、「子供のそうした心の要求をつくってゆく最善の方法としては、親達が自ら優れた人々について大きな尊敬をもち、自らの生活の中に自分の心の要求を示すことであると思う」とお書きです(同p.30)。「自分も〇〇先生のような演奏家になりたい」という心の要求をもつことができれば、教えなくとも自然と育つことではないでしょうか。私も朝永振一郎先生やアインシュタインに憧れて、科学者になりました。大切なのは勉強させることではなく、「英語を話せるようになりたい」といった心の要求をもたせることです。